

西海ブロック水産業情報

NO. 92 (平成28年1月～3月)

増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
	<p>○筑前海(沿岸・沖合) ・フトモズク養殖:3月現在、育成中。生育は順調で4月より収穫開始予定。</p> <p>○有明海 /リ養殖:12月20～22日に冷凍出荷し、12月27日から摘採開始、1月上旬からアカの感染は増加したものの、3月上旬まで植物プランクトンの大幅な増加がみられず栄養塩量が維持され、色落ちの初認は3月7日と遅かった。また、昨年度に引き続く高単価にも支えられ漁期終盤まで生産は概ね順調に経過し、3月上旬以降順次網揚げが行われた。三期作は3月上旬から網が張り込まれ、4月上旬までに1～2回摘採した。今漁期の生産枚数は12.6億枚(過去5年比95%)、生産金額153.0億円(過去5年比111%)、平均単価12.12円/枚(過去5年比+1.81円/枚)であった。</p> <p>○豊前海 【カキ養殖】 ・成長、生残とも順調。11月中旬より順次収穫開始、3月で概ね終了。生産は平年並み。 ・来期用の種苗は確保、質は概ね良好。 【/リ養殖】 ・10月中旬採苗。芽流れ等により生産は低調。 【栽培関連】 ・「かぐや装置」によるアサリ稚貝生産、干潟での放流試験を実施中。</p>	<p>○有明海 ・マガキ養殖 平成27年度は、18経営体が22基の筏を用いて生産を行い、収量は、昨年度(約70トン)を上回る約93トンとなった。 ・/リ養殖 27年度漁期は、秋芽網期はアカグサレ病の影響により生産枚数、金額とも平年を下回ったが、冷凍網期は栄養塩に恵まれたことから、漁場間の格差もほとんどなく豊漁となった。累計生産枚数は約19億枚、生産金額は約241億円となり、金額においては過去2番目となる生産となった。(13年連続日本一)</p> <p>○玄海 ・アカウニ:2月上旬から3月末までに10mmサイズ種苗19.7万個、15mmサイズ16.8万個配布済み。 ・クロアワビ: 平成26年度産 2月上旬から3月末までに放流用種苗(30mmサイズ)2.6万個配布済み。 平成27年度産 3月末時点で殻長6～15mm約35万個体飼育中。 ・カサゴ:2月上旬から生産を開始し、3月末時点で全長14～18mm約30万尾飼育中。 ・アゲマキ:1月下旬に殻長7～8mm8.5万個を放流。</p>		<p>魚病診断依頼はあったが、地区単位で特異的な魚病発生は確認されていない。 例年と比較し、低水温障害による被害は少ない傾向であった。</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>・放流用シラヒゲウニ種苗(殻径φ23mm)約1.5万個出荷。平成27年度でシラヒゲウニの種苗生産を終了。 ・1月上旬に南さつま市笠沙町片浦地先でMyrionecta rubra、鹿児島湾でProrocentrum balticum、3月下旬に鹿児島湾で、Noctiluca scintillansによる赤潮が発生したが、漁業被害はなかった。</p>	<p>藻類(ワカメ)養殖試験 沿岸漁業経営の副業として起業に際しての課題解決を目的に、市場からの要望の強いワカメを対象として、県北の北浦町(H27.12.16～)、県南の南郷町(H27.12.18～)の2地区で試験養殖による食害対策等の検討を行った。食害対策として、設置場所の選定とともに、忌避や藻体隠へい効果等を狙いとして園芸用人工植物等の幹網への設置を行い、3月中旬又は下旬まで生育観察を行った。その結果、人工植物等の設置は一定の食害防止効果が認められるものの、ワカメの初期成長阻害を起し、食害が発生しない場合には設置しない場合に比べ成長が劣ること、食害の発生は設置場所の影響が大きいことがわかった。また、海水温16.8～18.2℃の範囲では低水温ほど食害にあいにくく、成長も良好であるが、18.0℃付近を境に大規模な食害が発生する可能性が考えられた。</p>		<p>沖縄県のモズク養殖において、芽出し後の成長不良が確認されており、高水温、日照不足の影響が考えられる。</p>